

日刊 産業新聞

Japan Metal Bulletin

2019年(令和元年)

9月11日(水)

第19794号
Since 1936

精密製品の生産強化

富士ダイス

郡山 製造所 製作工具、自動検査化も

超硬超硬材料工真、国内首位の富士ダイスは、郡山製作所(福富町)で超硬材料の生産強化を進め、自動検査化を推し進め、検査時間の92%削減に成功した。

郡山製作所は熊本製鉄所(熊本県玉名郡)、岡山製鉄所(岡山県倉敷市)と並ぶ同社の主力拠点。熊本は複雑形状のプレス成型、焼結工

程を持ち、原料から工具・金型までの一貫生産を強みにする。出荷数量・金額は郡山が最も大きい。

郡山では2018年度(10年3月期)に受注が好調だったため、設備投資や増員で生産能力を高めた。現在は米中貿易摩擦の影響などで、生産能力に対して、調整程度の余力がある。供給力を高める一方で、生産性向上を技術強化にも取り組む。

郡山では量産品の単純丸物形状の工具に加えて、超精密製品の生産需要が増える。東京五輪を控えて内需の高まる光学レンズ用の金型、自動車向けの鍛造部品の製造に使う金型など、焼結後も炭化タングステンの粒径0.2μmを保持する独自合金「TFS06」は郡山でのみ製造する。製品寸法をミクロン単位で保証する、厳しい検査・測定態勢も持つ。

生産品の大半は少量多品種だが、製缶用ダイス、ブラック類は量産品のため、自動化・省人化に取り組む。17年から18年にかけて完成品の全数の寸法を測る3次元測定器、検査後の製品へのレーザー刻印を、それぞれ自動化した。従来は人手で製品を移動・セットしたが、アーム付きロボットの導入で無人化した。測定時間を7%、刻印時間を15%削減した。